

# 麦の穂

第62号

2017年9月  
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1 郵便振替口座 02200-8-46178  
E-mail : muginokai@k5.dion.ne.jp http://www.muginokai-koppe.com

目次	グループホームをどうしよう	飯嶋 茂	・・・1p
	きょうされん宮城支部公開セミナー報告	阿部 邦子	・・・3p
	共同連大会に参加して	斎藤 七恵	・・・5p
		氏家 大介	・・・7p
		高橋 秀幸	・・・8p
	共同連東北ブロック交流会報告	小椋 亘	・・・9p
	NPOの杜(河北新報夕刊コラム)より		・・・12p

## グループホームをどうしよう

飯嶋 茂

他にももれずコッペでもメンバー・親とも年齢を重ね、グループホームのことも検討していかねばという意見も出されるようになりました。

まずは、実際にやっている人からお話を聞こうと、「グレープGrapes」の進藤さんに来ていただき、お話を聞かせていただきました。

グレープGrapesさんでは、現在、グループホームを3か所を運営しています。

①幸来荘(コッペの目の前・一般のマンションの部屋を借りている)

13部屋 (6畳・台所3畳)                      2部屋 共有スペース・事務室

②原町 一軒家 築9年    10畳 バリアフリー    男性専用 4人

③八木山 アパート    5部屋 (7.5畳・台所2.5畳)

①の幸来荘は本当にコッペの目の前で、入居している方がコッペのパンを買いに来てくれたりしています。休日には友達同士でオレンジインで500円のランチを食べたり、まねき猫に行ったりしているそうです。

大きな特徴としては、24時間職員がいるということ。10時～7時は、夜間支援

員が入り、夜の見回りとして11時・2時・5時・7時巡回しているそうです。他のグループホームは、ほとんどは夜間はいないということですから、親としては安心感があります。通常の職員配置の1.4倍くらい的人数で、通院に同行することもあり、金銭管理・服薬管理もしています。一部ヘルパーさんも入ることもあります。

金銭管理についてはいっぺんにわたすと使ってしまうので、一日500円ずつ渡したり、通帳も預かり、1ヵ月に一度通帳のコピーを家族に渡すようにしています。もちろん、まもり一歩を利用している人もいます。

洗濯・掃除については、職員がついて週に2～4回するそうです。

家賃は、3万7千円が上限（生活保護の家賃補助の上限）。水光熱費は、実費負担もしくは一律に徴収し、平均すると6千円/月ぐらいです。

食事は、365日、朝食・夕食は提供しています。食費は、580円/日。1ヵ月にすると1万8千円。食事がいない時は、前日までに申し出るようにし、共有室もしくは希望により自分の部屋で食べてもいいそうです。

朝食は7時。食べてから出勤、夕食は18時～19時半。帰宅後は、共有室で過ごす、部屋にいる、風呂に入るなどは自由。お風呂は20時まで。火事はこわいのでガスの元栓等の点検はするようにしているそうです。

消灯は10時。でも11時ぐらいまでOK。11時過ぎても電気がついている時は職員が声をかけます。

直接消防に連絡がいく自動通報装置を付けています。スプリンクラーはつけなくていいのですが、これは必須で100万ぐらいかかる。市より補助もあるが、不足分は法人の持ち出し。アパート・マンションの場合、一般に借りている人の部屋にもつけなくてはならない。この費用も法人持ちだそうです。

年齢構成は、18歳～60過ぎの人もいます。

土日は帰る人もいる。家族が来る場合もある。家族は自由にきてもいい。友達・知り合いは共有室で会おうことにしています。

職員体制を厚くしている分、土日は帰られてばかりいると経営的には厳しくなりますが…。

お試しをやっていきますかという質問に対しては、やってみたことがあるが、「自分の部屋」という感覚にならないのでうまくいかない。自分の荷物を持ってきて「自分の部屋」となると結構みんな帰らなくなる、というお答えでした。

後日、さっそく幸来荘と原町のグループホームを見学させて頂きました。一緒に行ったMさんは実際にイメージができて、大いに参考になったようです。

麦の会としてすぐにグループホームの運営をすることにはまだならないと思いますが、これを機会に引き続きみんなで考えたいと思います。

# きょうされん宮城支部市民公開セミナーの報告

## 「親亡き後の問題について」

～大阪府吹田市 さつき福祉会・伊藤成康さんのお話より～

平成29年1月29日（日）にセミナーがあるとお聞きし、自分たちが亡き後に我が子をどうするのか、漠然としか考えていないまま出席いたしました。たくさんの資料の中に組み込まれている、行間だけでは言い切れないほどの問題と皆様の現在進行系の努力と、利用者への取り組み方の真剣さに、今の自分の置かれている環境との大きな違いに大変驚き、講演の内容に引き込まれていきました。

### 1. 暮らしに関わる事業の歴史

福祉会の「仲間の暮らしの検討」は、グループホームが出来る以前の1980年代から始まる。親亡き後の施設としての「生活施設」への家族の願いを受け、「将来構想検討委員会」を開催。1993年、6名の利用者から始まり、現在グループホーム21ヶ所に、94名の利用者が在籍。

### 2. グループホームの特徴

1993年頃、「親が亡くなり、独りになっても吹田から離れたくないという人」「なかなか親離れが出来ずにいる人」「20年以上も入院した精神科の病院から退院したいが受け入れ先がない人」等の『人生にひと花咲かせたい』という人々の思いに共感しスタートした。

現在、自前建設ホーム2ヶ所、一戸建て賃貸住宅6ヶ所、マンション1ヶ所、公営住宅6ヶ所。（住居としては11ヶ所を利用）そして、昨年開設の「フェリス」はオーナー建設の注文住宅ホーム。（大阪府下のグループホームの1/3は公営住宅、全国の公営住宅ホームの3/4が大阪府）これまで23年間で6名がホームから出て『1人での自立生活』に移行。生活施設にも4名移行。

### 3. 「命と健康を守る」暮らし

暮らし支援の基本は、利用者も職員も『まず健康であること』から。

訪問看護事業所と契約、健康管理、浣腸、投薬管理、導尿、24時間相談

毎年のように、仲間の重要な出来事の連続 → それをフォローしている。

### 4. 暮らしの支援で何を大切にしてきたか

最近『部屋提供・職員配置』から『どんな暮らしにするか』を課題としている。

「仲間の人生に寄り添い共に生活を楽しめる関係作り」を意識。若い職員が利用者の気持ちをどう理解するか、等。

(例) 仲間の声と表情を把握し、本当に楽しめているか聞き取りアンケートを取る。  
地域の中で暮らす意味。近所付き合いが仲間の発達・人生の重みに大きく影響。  
土日・夕方にガイドや、休日キーパー日勤体制でホームの支援を行っている。

#### 5. 家族との関係作り

家族会は毎月開催。お便りの発行。成年後見制度の定期的な学習。ビデオでホームの様子を伝える。家族のホーム大掃除。仲間をほったらかしの家族は出さない。家族の話聞き、個別の悩みを受け止める。

#### 6. ホームの開設に関して

①ホームを利用したい仲間 ②みんなで住む家 ③支援する職員 …の3条件が最低必要。現在はどこも職員確保が大変。また、いかに日常的に地域とのつながりを持つことも大切。まずは、各市町村の窓口と調整。

#### 7. おわりに

暮らしの課題は多様で困難性（健常者でも大変）

すべてをホーム法人内で完結しない

あらゆる社会資源やマンパワーとの関係づくりを大切に

地域のネットワークの創設を

今後予想される高齢化や重症化を踏まえた暮らしの支援システム確立の必要性がある。

もしも、自分ならどんな人生を送ることが幸せかをいつも考える。でも人それぞれ…。自分ならどんな人生の最期を迎えたいかを考える。そして、彼ならどうかと…。

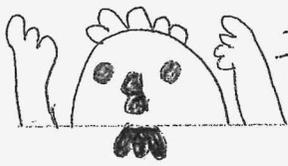
#### <まとめ>

グループホームは作りにくいし、スタッフの確保も大変難しい。しかし、必要とする方々がたくさんいるから、作る方の人々にもぜひ私達の実行と内容とかをいろいろ聞いて前に進んで行ってほしい、とも言われておりました。

家族も、家族の人生を充実していつてもらいたいと常に家族会で言っております。

今はまだ何もしていないけれど、ショートステイやガイドヘルパーを利用した外出など、家族から一歩離れてやっていく練習を重ねることで、自立への道を少しずつ目指してほしいし、親が存命のうちに始めた方が良いというアドバイスをいただきました。

(文責：阿部 邦子)



# 共同連 滋賀大会



齋藤 七恵

9月1日から3日まで、滋賀県に行ってきました。滋賀県に着いたら、がんばカンパニーの人が車で迎えに来てくれました。乗せてもらって、がんばカンパニーに行きました。

お店の中、職場の中を見学させていただきました。みなさん「もくもく」自分の仕事をこなし、頑張っていました。一つの仕事を集中して頑張っていました。みんな、出来る仕事をしてました。なるほど〜とうなずきました。

みんなが、みんな仕事を一生けんめいでした。仕事始める時ローラーして、シャワー室(ごみとり)これでごみがとれるんだなあ!すごいなと思いました。て、ていしてるんだなあ!

それから、ワッキーとお茶をいただきました。😊😊  
とっても美味しかったです。😊😊😊😊😊😊😊😊

スクリーンでがんばカンパニーのみんなのようすなど見させてもらいました。いろんな事を

体験してるんだなあ。と思いました。

あとクッキーを買いました。沢山あって、どれにしようかとまよいましたが、気がよ、た、アメールを買いました。ココアマールは、試食して、美味しかったので、まよ、たけど、買いました。何種類あるの？、てぐらい沢山のクッキーがたなに並べてありました。

次の朝は京都へ行きました。京都で有名な伏見稲荷に行きました。人が沢山いて、びっくり。目の前の赤い鳥居がドミノのような景色に私の目にうつりました。あ、とうさされました。行けて本当に嬉しかったです。後、琵琶湖に行けたことも最高に最高に、嬉しさでいっぱいでした。滋賀の空もきれいでした。雲も秘雲のようでもきれいでした。

とても楽しい3日間でした。♡ ♪♪

〈編集後記〉

- \* 社団法人仙台建設業協会様より寄附金を頂いています。
  - \* 難民を助ける会さんを通じて、イオン1%Club Foundation様よりミキサー購入の助成を頂きました。
- ありがとうございます。(飯嶋)

9月1日(金)から3日まで共催連滞賀大会

JR東日本はやがてとにまちのの2東京駅へ行ってそこから  
JR東海道の新2みにの2京都へ行ってきまはる東海道本線  
にのつて、かんぱかパニー見学をしました。

いろいろなグッズがありました。

たくさんの方がはたらいていました。

ソニーもきました。いろいろなきか  
冷蔵庫がありました。これにもいきました  
きれいなみすうみがありました。



2日はお寺にいらておまいりしまし

た。あとこのも重要なお話をきき  
ました。あと交流会もしました。

3日ははたらくことをはなそう  
どんなにことをしてるのか

にことをいつらにことをうらしいことか

好きな人もいろいろなしなをしまはる。

たのしいかった。川村氏家大介

電車の旅

鉄道マニアの大介くん。  
生き生きと列車の説明  
をしてくれました。

本当に楽しかったです。



あ！貨物だ！！  
ボクは客車まつ  
貨物が好きなんだ



スマホ中

車内の松本くんは  
いつも静か...

ガンバカンパニーを見学して

高橋秀幸



ガンバカンパニーは衛生管理を徹底して、様々な機器を使い大量生産している。障害など関係ないを実現している施設でした。施設内で見たビデオではいろいろなことを介助と共に取り組む姿が写っていました。障害者も自立できるんだ、と言ってるようでした。



## 「第4回 共同連東北ブロック交流会&マラソントーク

### 社会的事業所研究会参加報告」

小椋 亘

はじめまして。宮城県仙台市に住んでいる小椋 亘と申します。今回、初めて『第4回 共同連東北ブロック社会的事業所研究会』に参加させていただきました。以前から、共同連の取組みは、宮城県で共に活動している NPO 法人 麦の会の飯嶋さんや、松本祐一さん、元わっぱの会の方から聞いており、興味があり参加してみたいと飯嶋さんに相談したところ、今回の情報をいただき参加させていただきました。

私は、学生の頃から約 15 年間、仙台市にある『C I L たすけっと』という自立生活センターで活動してきました。東日本大震災が起きてからは、地元の有志の団体と『被災地障がい者センターみやぎ』を立ち上げ、事務局として被災者支援をおこなってきました。その際は、多くの共同連の関係団体の皆さんに震災支援に駆け付けていただき、活動面だけでなく精神面でもとてもお世話になったことを、この場をお借りしてお礼いたします。

震災当時、激動の日々で事務局メンバー全員が精神的にまいっていた中、皆さんはそんな状態を察しながら継続的にサポートをして下さいました。そのサポートがどれだけ心の支えになったことか、言葉では言い表せないほどです。皆さんの協力がなければ、あれだけ多くの被災者支援は不可能でしたし、それにきっと事務局メンバーも皆が潰れていたと思います。

今、あの時期を振り返り一番心残りなのは、当時、支援に駆け付けて下さった皆さんに対して、しっかりとお礼ができなかったことが、今も本当に申し訳なく思っているのです。私は、あの震災を機に多くの方と出逢ったことで、多くを教わりとても視野が広がりました。ですので、これからお礼がてらお世話になった皆さんの団体に見学を兼ねて遊びに行きたいと考えておりますので、どうかその際は宜しくお願いいたします。

私は今も、CILたすけっとの活動には参加していますが、今年の3月末で事業所部門を退職し、今は2018年4月に新たな団体を発足するために、障がいがある仲間やその他数人の有志と準備をしているところです。

前段が長くなってしまいましたが、私が共同連に興味を持って参加した理由は、私が新たな団体で取組みたいことに“人を物として扱わない、金でみない社会”のあり方を、まずは1つの団体の中で、働く仲間と共に自治的な運営で実践したいということがあるためです。

ここで言う当事者とは、決して障がいがある方だけを指しているのではなく、そういった社会を共に作りたいと考えている者を指しており、同じ現代社会に生きる仲間として捉えています。そういった仲間と、障がい者などの人権運動を通して活動と事業をおこなっていきたいと考えています。

そういった団体を作りたくて、フランスの連帯経済のあり方や、イタリアの協同組合のあり方、そして日本にかつてあった持続可能・継続可能な地域コミュニティや市場経済のあり方などを勉強している中で、改めて共同連の取組みに興味を持ちました。また同時に、いかに日本には労働者が自治的に運営している企業が無いかということも分かりました。

私はこれまで、福祉事業が利用者＝収入となっている構図について、利用者をイコール金として見てしまいがちになる構図であること、そしてその金の流れや構図によって障がいがある方とない方が対等な関係ではなくなることの危険性を感じ話してきました。元々、市民活動で共に歩む運動体であった団体も、年月が経つにつれて、メンバーが非自治的なサラリーマン化してきたり、支援者と非支援者といった関係に陥っていくという事例は、今回の研究会でも話題となりました。私もそういった歯痒い経験をしております。私も会議の場で度々「私たちは人対人の付き合いをしていくのであって、利用者を絶対に金として見てはいけない」「人質化や囲い込みはいけない」と話して来ましたが、それがどうも理解できない、共に歩むという感覚が無い

人が事業所に多くなってくると、団体のあり方が変わってきてしまいます。一方で団体の運営資金も福祉サービスだけに頼って運営していると、構造自体が利用者＝収入となってしまうことも苦々しい思いで葛藤してきました。

今回の研究会でも斎藤縣三さんや皆さんがお話されていたように、元々、福祉サービスは後から出来たものであり、あくまで道具にしか過ぎなかったはずのものが、いつの間にか福祉は「福祉サービスの組合せ」という非常に狭い世界のことになってしまっていると感じています。

その事業所と利用者の関係性は、つまり運用の仕方だと思っているので、いかに利用者が主体性を持っているかや了解しているか、運営自治に参画しているかで変わってくることで、道具として制度を活用していれば福祉事業イコール悪いわけではありませんが、福祉事業が陥り易い構図に、まんまと陥っている人がどれほど多いことか現状を考えると、とても危険な状況だと思っています。それを回避するには、理念や考え方を話して伝え続けていくことと、自らが実践し提示していくことしかないと考えています。

そういった思いから、私は福祉事業だけでなく、一般事業も複数おこなう団体を作りたいと考えています。その中で、障がいの有無に関係なく、共に仕事や働く場を創り、共に歩みながら、働く場の共有化と利益の分配ができる体制を築きたいと考えて準備をしているところです。そういった体制をとることで初めて、人を物や金とみず、人対人の対等な人間関係が築ける構図になると考えているからです。

私は、福祉とは「その方に、より多くの人を繋ぐお手伝い」であり、繋がりとは人として豊かで安心な暮らしをしていく上で最も重要な要素の1つと考えています。ですので福祉サービスは、元々利用者が独立した存在として、社会で多くの方と繋がりの中で生きていく為の道具だと私は考えているので、利用者も共に団体の運営者として参画しながら、福祉事業自体を利用者自身が使いやすい道具として扱いながら自治運営していく、そんな福祉事業所に

していきたいと考えています。

この場をお借りして、自分がこれから取り組みたいことをいろいろ話させていただきましたが、これから、障がいの有無にかかわらず共に歩む社会を作ろうとする当事者と共に自治的な運営をする団体、普通の事業をおこなっている団体にたまたま障がいがある方もいる、そんな団体を目指していきたいと思います。今回の研究会では、上記の私の考えを整理する上で大変勉強になりました。これからも、共同連に参加させていただき、学んでいきたいと思いますので、皆さまアドバイスをいただけると幸いです。今後とも、宜しくお願いいたします。

以上

河北新報夕刊より

～大西さん、すてきな文章をありがとうございます～



8/14  
河北夕刊

## 障害ある人も共に働く

私たちの事務所には1～2週間に1度、「コッペ」というパン屋さんが出張販売に来ます。国産小麦を使用した食パン、菓子パンから、いろいろな味のクッキーなど、毎回何を買おうかと悩みます。

運営するのは、障害のある人も無い人も一緒に働ける場を目指す特例認定NPO法人麦の会。障害者が働くための施設ではなく、普通のパン屋さんにたまたま障害のある人も一緒に働いている、みんな同じ職場の働く仲間です。

もちろん人によって得意、不得意があります。でも、日々作業を繰り返していく中で、その人に合った得意な作業をその人自身がだんだんと

見つけていきます。障害があっても、得意な作業は正確に、丁寧な仕事ができるようになるのです。

例えば、働き始めて20年以上になるAさんは、商品ラベルの作成や、注文書の通りにパンやクッキーを袋詰めする作業のベテランです。

麦の会は、彼らの自立に向けてもっと工賃が支払える運営がしたい！と日々、販売の開拓に努力しています。

パンを買うこともこの活動を応援する形の一つです。お店は仙台市宮城野区松岡町17-1にあります。ぜひ足を運んでみてください。

(認定NPO法人杜の伝言板  
ゆるる 大西直樹)